



自閉症と発達障害児者への
サポートグループ
(特活)おひさまクラブ
代表理事

障害児と報道 について

もう一方的に「報道被害者だ」と言えないほど社会の状況は厳しい。悲しい事件を繰り返さないためにも、啓発活動も含め当事者団体の力強い活動が必要だと思う。

犯罪報道での「障害名・診断名」の公表、それぞれの立場で、それぞれの傷つき

今年の7月1日、嫌な事件が発生した。長崎の児童殺害事件だ。数日後、逮捕された犯人はまだ中1の少年だった。断片的に伝わってくる報道からの情報で、発達障害の子を持つ親や関係者は薄々気づいていた。そして、精神鑑定に入った段階で覚悟を決めた。間違いなく診断名、障害名が公表されるだろうと…。

最近、凶悪な少年犯罪に関しては同類の事件に対する抑止力として、事件の背景や家庭環境、本人の生育歴等を公開すべきであるという情報公開が叫ばれている。また、犯罪被害者に対する人権擁護の動きも起きており、たとえ少年であろうと、人の命を奪ったという罪に対して、きちんと償わせるべきであるという話も耳にする。確かにそうであろうと思う。私も2人の息子を持つ父親として、もし事件の被害者側の立場になっていたら、被害者のご両親と同じようにできる限りの情報公開を求めていくと思う。なぜならば、なぜ自分の子どもが、どうして殺されなければならなかったのか、親としてその理由を知りたいと思うからだ。そして、今回の事件に関して、社会の驚愕、悲しみ、怒りもまた理解できる。それに合わせて報道が過剰に反応するのもやむを得ないことではないかと、一定の理解はできる。

しかし、一方では、今回の報道で障害名、診断名が出たことにより、発達障害を持つ本人やその家族、支援している関係者へのダメージは果てしなく大きい。今までコツコツと積み上げてきた地域社会からの信頼関係が崩れてしまったからだ。長崎に近い地域における発達障害者の一般就労は、しばらくの間無理ではないかと言われている。周囲からの冷たい視線に、どれほどの親が身をすくみ、嵐が過ぎ去るのを待っているかと思うと言葉にならない。

こうして、お互いの立場を考えてみると、いかに今回の事件が複雑であるか。私自身正直答えが見つからない。しかし、このような事件はもう2度と起きてほしくないし、多くの人たちが傷ついていくのを黙って見ているわけにもいかない。特に今回の事件に関する報道については、やはり少し提言をさせてもらいたい。

専門家を交え、できるだけ平易な説明を。知れば「親の責任論」はナンセンスと分かる。

1つは、このような事件の報道に関して、もし多くの人々に真実を知らせたいという使命から、障害名、診断名を公表すべきと

報道機関が判断した場合、できるだけ一般の人たちにわかりやすい説明を、その障害の第一人者の専門家を交えて行う努力をしてほしいと思う。発達障害や自閉症は、目に見えない障害だけに多くの人たちが誤解して障害を捉えている。自閉症=ひきこもりと勘違いし、親のしつけがなっていないとか、わがままだとか、原因を精神的・情緒的障害として捉え、子育てで精一杯の親たちに対して、親の資質を問う人たちが多いことか。しかし、それは明らかに間違いであると、児童精神科医や発達障害の専門家は叫んでいる。その事実も一緒にきちんと伝えてほしいと思う。

一般化せず、特殊事例として取り上げてほしい。本来の障害というより二次的な障害では

2つめは、今回の凶悪な事件は、あくまでも特殊な事例として取り上げてほしいと思う。今のままでは、今後このような事件が起こるたびに、発達障害を持つすべての人が起こすのではないかという誤解を招きかねない。発達障害を持つ大多数の子どもたちや成人した人たちは、天真爛漫な心を持ち、優しい人たちであることが多いと思う。周りの誤った支援や心ない言動に傷つき、本来持っている障害に二次的障害を引き起こし、人格がボロボロになってしまった人たちが事件に関与しているように思える。これは、当事者の問題というよりも、周囲や社会が彼らを追いつけてしまったと反省すべきではなからうか。だからといって、社会の病理的現象として捉え、報道するのも極論に走っている。あくまでも一事件として、社会的なヒステリーに結びつかないようにお願いしたいと思う。

なぜ起きたのか、今後どのようにすべきか、支援方法や背景への提言もほしい。

3つめとして、なぜこのような事件が起きたのか、そして今後どのようにしていくべきなのかをきちんと提言できるようにしてほしいと思う。今回の事件の場合、少年への支援は全くなかったように見える。そして、親への支援もなかったように思える。あくまでも推測であるが、親は我が子の障害について薄々気づいていたのではないだろうか。勉強ができていた分、障害を必死に否定していたか、もしくは無意識のうちに見ないようにしていたのかわからないが、親自身、相当心が揺れ動き、悩んでいたのではないかと思う。このような場合、今の教育体制、行政の体制では、家庭の中まで踏み込んで対応することは本当に難しい。例えば、学校で疑いを感じたにせよ、それを親に伝えることは「障害

児扱いにして」と学校が悪者になり、親と学校の信頼関係を崩しかねない。現場も対応に苦慮している。だからこそ、軽度発達障害児者への実態や現状について、日頃から関心を持ってほしいと思う。何もわからないまま、いかにもとってつけたような報道は避けるべきであると思う。

また、報道する側だけではなく、発達障害児者の親や関係者も社会に対して、障害を隠すことなく、理解を求めていく行動を積極的に行ってほしいと思う。今回の事件のような風評被害に対抗するには、日頃からの周りとの信頼関係が不可欠である。

軽度な障害でも周囲の理解なしに社会で生きていけない。一貫した支援体制の整備を。

それから、早期に医療・教育・福祉・行政を融合させた一貫した支援体制の整備が必要である。どんなに軽度でも周囲の理解・支援なしでは、この社会に生きていくことは難しい。今後このような悲しい事件を繰り返し起こさないためにも、報道機関への啓発活動も含め、当事者団体の力強い活動が必要であると思う。もう一方的に、報道被害者であると言えないほど、社会の状況は厳しい。私たちの活動いかんでは、犯罪者予備軍というレッテルが貼られてしまう可能性すらあるという危機感を持つべきだと思う。

もう2度と起こしてはならない。